

バングラデシュ

People's Republic of Bangladesh

		2012/13年度	2013/14年度	2014/15年度
①人口：1億6,070万人（2016年5月1日）	④実質GDP成長率（%）	6.0	6.1	6.5
②面積：14万7,570km ²	⑤消費者物価上昇率（%）	6.8	7.4	6.4
③1人当たりGDP：1,236米ドル (2014/15年度)	⑥失業率（%）	n.a.	n.a.	n.a.
	⑦貿易収支（100万米ドル）	△7,009	△6,794	△6,277
	⑧経常収支（100万米ドル）	2,388	1,406	1,995
	⑨外貨準備高（ネット） （100万米ドル）	15,315	21,508	25,021
	⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	22,381	24,388	23,489
	⑪為替レート（1米ドルにつき、 タカ、期中平均）	79.93	77.72	77.68

〔注〕 年度は7月1日～翌年6月30日、①③～⑤⑩⑪の2014/15年度は暫定値、⑦：国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕 ①～③：バングラデシュ統計局、④～⑪：バングラデシュ中央銀行

安定した経済成長が続く

バングラデシュは実質GDP成長率が平均6%台の安定した経済成長を続けている。2014/15年度（2014年7月～2015年6月）は内需や輸出に支えられ、政府目標の7.0%には届かなかったものの、6.5%の経済成長を記録した。産業別にみると、GDPの30.4%を占める鉱工業（建設業含む）が前年度比1.4ポイント増の9.6%増となり、全体を牽引した。大雨の影響で農林水産業は1.4ポイント減少し、3.0%増にとどまった。サービス業は、0.2ポイント増の5.8%増と伸び率は前年度と同水準だった。バングラデシュ財務省は、実質GDP成長率が過去10年間6%台が続いている状態を「6%成長のわな」と評してきたが、2015

／16年度を7.1%と予測し、成長の加速を見込んでいる。しかし、アジア開発銀行（ADB）は6.7%、IMFは6.8%と予測している。

2015年7月に世界銀行は、バングラデシュが1人当たり国民総所得（GNI）で1,026ドルを超えたとして、低中所得国と認定した。バングラデシュ統計局によると、2014/15年度の1人当たりGNIは1,316ドルと前年度より132ドル上昇し、2015/16年度には1,466ドルに上昇すると見込む。

2014/15年度の消費者物価指数（CPI）上昇率は、国際的な原油価格の下落から6.4%と、前年度比1.0ポイント低下した。政府は2015/16年度については6.2%と予測している。2014/15年度の為替レートは1ドル77.68タカで、前年度と比べてほぼ横ばいであった。

国際収支は、経常収支が19億9,500万ドルで3年連続の黒字を計上した。好調な輸出による貿易赤字の縮小と海外労働者からの郷里送金の増加が黒字を支えている。2014/15年度の郷里送金合計額は前年度比7.5%増の153億1,690万ドルだった。中東諸国への出稼ぎ労働者からの送金が主だ。農村部ではこの郷里送金が家計収入源となっており、消費行動を活発化させている。2014/15年度末の外貨準備高は、250億2,100万ドル（同年度の輸入額の7.4カ月分に相当）と前年度比16.3%増となり、2015/16年度も増え続けている。

過激派によるテロ事件が発生

2015年1月に、野党は現政権の不当性と選挙のやり直しを訴え、全国レベルの抗議行動を開始した。3カ月に及ぶハルタルと呼ばれる抗議ストライキや道路封鎖は消費の低迷を招き、経済に大きな影響を与えた。2015/16年度は、イスラム教過激派組織による外国人を含む異教

表1 バングラデシュの産業別実質GDP成長率

(単位：%)

	2012/13年度	2013/14年度	2014/15年度	
	成長率	成長率	成長率	構成比
実質GDP成長率	6.0	6.1	6.5	100.0
農林水産業	2.5	4.4	3.0	16.0
農林業	1.5	3.8	2.1	12.3
水産業	6.2	6.4	6.4	3.7
鉱工業	9.6	8.2	9.6	30.4
鉱業	9.4	4.7	7.5	1.7
製造業	10.3	8.8	10.3	20.2
電力・ガス・水道	9.0	4.5	7.0	1.4
建設業	8.0	8.1	8.6	7.2
サービス業	5.5	5.6	5.8	53.6
卸・小売業	6.2	6.7	6.6	14.1
ホテル・レストラン	6.5	6.7	6.9	0.8
運輸・通信業	6.3	6.1	6.0	11.4
金融業	9.1	7.3	8.8	3.4
不動産業	4.0	4.3	4.7	6.8
行政・国防	6.5	6.9	7.5	3.4
教育	6.3	7.3	7.6	2.3
健康・社会活動	4.8	5.1	5.7	1.8
コミュニティー・個人サービス	3.3	3.3	3.4	9.5

〔注〕 2014/15年度は暫定値。

〔出所〕 バングラデシュ統計局

徒への襲撃事件が相次いだ。2015年10月の邦人殺害事件を受け、日本の外務省はバングラデシュ全土の渡航危険情報をレベル2に引き上げた。2016年7月1日には、武装集団がダッカのレストランを襲撃し、日本人7人を含む人質20人が殺害されるテロ事件が発生した。

事件後にジェットロが行った在バングラデシュ進出日系企業向けアンケートによると、約7割の企業がビジネスへの影響を懸念している。事件後もオフィスや工場での事業を継続する一方、駐在員の外出や出張者の受け入れを制限するなど、警戒態勢を強めている。

■ 衣料品を中心に、輸出額が増加

2014/15年度の輸出総額は前年度比3.4%増の310億7,600万ドルとなり、過去最高額を更新した。輸出総額の82.0%を占める衣料品は、4.1%増の254億9,100万ドルとなった。内訳をみると、布帛品が5.0%増の130億6,500万ドル、ニットが3.1%増の124億2,700万ドルだった。靴・履物が22.4%増、自転車^{ぶひく}が11.7%増となっており、衣料品以外の輸出品目の伸び率が高かった。一方、原材料の現地調達が可能で、衣料品に次ぐ産業の一つである皮革・同製品の輸出額は13.3%減と落ち込んだ。

国・地域別にみると、輸出額の18.6%を占める米国が最大で、このほかドイツや英国などの先進国が上位となっている。この理由としては、一般特恵関税制度(GSP)の適用により、バングラデシュ製品への関税が減免されることが大きい。世界最大の衣料品輸出国である中国の人件費が高騰しているため、豊富で安価な労働力が比較的確保しやすいバングラデシュでの生産が増加していることも、輸出拡大の要因の一つだ。

2014/15年度の輸入は、前年度比0.4%減の405億7,900万ドルだった。輸入額減少の要因は資源価格の下落である。輸入総額の10.8%を占める鉱物性燃料・同製品は14.3%減と、輸入額全体を押し下げた。原油やガソリンなどの輸入量は、それぞれ10.3%増、7.8%増と増加したが、金額ベースでは減少した。品目別でみると、設備投資の拡大やインフラ整備の需要により、機械・同部品は12.9%増、鉄鋼製品は11.5%増と、2桁台の伸びを示した。国・地域別にみると、衣料品の原料となる綿・同製品の輸入先である中国とインドが、輸入額全体の34.7%を占めた。

■ 輸出加工型は頭打ち、インフラ投資が拡大

2015年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は前年比44.1%増の22億3,500万ドルだった。米シェブロン^{ぶひく}のビビヤナ・ガス田への追加投資など資源関係の投資が大幅に増加したことが要因とみられる。首位

表2 バングラデシュの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ドル、%)

	輸出 (FOB)			
	2013/2014年度	2014年/2015年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
衣料品	24,492	25,491	82.0	4.1
布帛品	12,442	13,065	42.0	5.0
ニット	12,050	12,427	40.0	3.1
ホームテキスタイル類	903	944	3.0	4.6
ジュート製品	714	728	2.3	2.0
靴・履物	550	673	2.2	22.4
皮革・同製品	746	647	2.0	△13.3
合計 (その他含む)	30,062	31,076	100.0	3.4
	輸入 (CIF)			
	2013/2014年度	2014年/2015年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
綿・同製品	5,423	5,398	13.3	△0.5
鉱物性燃料・同製品	5,134	4,400	10.8	△14.3
機械・同部品	3,098	3,496	8.6	12.9
鉄鋼製品	1,916	2,136	5.3	11.5
電気機器・同部品	1,873	1,933	4.8	3.2
穀物類	1,652	1,688	4.2	2.2
プラスチック・同製品	1,520	1,615	4.0	6.2
合計 (その他含む)	40,732	40,579	100.0	△0.4

[注] ①輸入総額には輸出加工区、借款・贈与分を含む。

②2014/15年度は暫定値。

[出所] バングラデシュ輸出振興庁およびバングラデシュ中央銀行

表3 バングラデシュの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ドル、%)

	輸出 (FOB)			
	2013/14年度	2014/15年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
米国	5,584	5,783	18.6	3.6
ドイツ	4,720	4,705	15.1	△0.3
英国	2,918	3,205	10.3	9.9
スペイン	1,616	1,754	5.6	8.5
フランス	1,678	1,744	5.6	3.9
イタリア	1,332	1,382	4.4	3.7
日本	862	915	2.9	6.2
合計 (その他含む)	30,062	31,076	100.0	3.4
	輸入 (CIF)			
	2013/14年度	2014/15年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
中国	7,550	8,232	20.3	9.0
インド	6,036	5,828	14.4	△3.5
シンガポール	2,407	2,199	5.4	△8.7
日本	1,291	1,524	3.8	18.0
インドネシア	1,104	1,398	3.4	26.6
マレーシア	2,084	1,300	3.2	△37.6
輸出加工区への輸入	2,975	3,022	7.4	1.6
合計 (その他含む)	40,732	40,579	100.0	△0.4

[注] ①輸入総額には輸出加工区、借款・贈与分を含む。

②2014/15年度は暫定値。

[出所] バングラデシュ輸出振興庁およびバングラデシュ中央銀行

の米国は5億7,400万ドル、続いて英国が3億1,000万ドル、シンガポールが1億7,500万ドルとなり、いずれも前年より増加した。輸出加工区 (EPZ) 向けは前年とほぼ同額で、工場拡張などの再投資がその9割以上を占めた。

輸出加工型の外資系企業は、インフラが整備されている、各種手続きが簡便などの理由でEPZへの進出を選択

表4 バングラデシュの主要国・地域別対内直接投資
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

(単位：100万ドル、%)

	2014年	2015年		
	金額	金額	構成比	伸び率
米国	17	574	25.7	3,208.9
英国	178	301	13.5	68.7
シンガポール	117	175	7.8	49.3
韓国	132	150	6.7	13.6
香港	114	142	6.3	24.5
マレーシア	58	110	4.9	91.9
インド	71	103	4.6	45.5
日本	96	45	2.0	△52.9
合計（その他含む）	1,551	2,235	100.0	44.1

〔注〕 2015年は暫定値。

〔出所〕 バングラデシュ中央銀行

するケースが多い。しかし、8カ所中5カ所でほとんど空きがなく、空きのあるモングラ、イシュワルディ、ウットラの3カ所は、交通アクセスの問題などから入居が進んでいない。政府は2010年にバングラデシュ経済特区庁（BEZA）を発足させ、経済特区（EZ）を100カ所建設し、1,000万人の雇用創出、さらなる輸出拡大を図る政策を打ち出した。EZでは、EPZでは行えない内需向けの製造業の立地も可能で、国内サプライチェーン形成に寄与するとしている。

政府はパドマ橋、パイラ港などの八つの最優先プロジェクトを掲げ、インフラ整備に取り組んでいる。2014年に安倍首相が訪問し、4～5年で6,000億円の円借款供与を約束した。日本の支援の下、ダッカ・メトロ、マタバリ超々臨界圧石炭火力発電所や、カチプール・メグナ・グムティーの3橋梁改修事業などが動き始めている。

■ 対日輸出の伸び率鈍化

2014/15年度の対日輸出は前年度比6.2%増の9億1,500万ドルとなり、前年度の14.9%増から鈍化した。しかし、全体の71.3%を占める衣料品は14.0%増となり、引き続き高い成長を維持した。2015年4月1日より、日本の一般特恵関税制度（GSP）が適用されるニット製品の加工工程基準が、編み立てと縫製の2工程から縫製の1工程に緩和された。新基準の本格的な運用開始となった2015/16年度以降は、ニット製品のさらなる対日輸出拡大が見込まれる。

日本からの輸入は円安の影響を受け、前年度比18.0%増の15億2,400万ドルとなった。主要輸入品の船舶は32.2%増となった。船舶はチッタゴン周辺で解体され、鉄のスクラップが主に国内向けに供給される。プラスチック製品も59.6%増と大きく増加した。前年度最大の輸入品目であった鉄鋼は、中国から安価な鉄鋼が大量流入したため、22.1ポイント減の5.7%増にとどまった。

表5 バングラデシュの対日主要品目別輸出入＜通関ベース＞
(単位：100万ドル、%)

	輸出 (FOB)			
	2013/14年度	2014/15年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
衣料品	572	653	71.3	14.0
布帛品	319	373	40.7	16.9
ニット	253	280	30.6	10.4
靴・履物	116	95	10.4	△17.8
皮革・同製品	40	41	4.4	1.9
一般機械・同部品	23	30	3.3	29.3
合計（その他含む）	862	915	100.0	6.2
	輸入 (CIF)			
	2013/14年度	2014/15年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
船舶	341	451	29.6	32.2
鉄鋼製品	382	404	26.5	5.7
輸送機器・同部品	212	268	17.6	26.3
機械・同部品	141	162	10.6	14.6
プラスチック製品	17	27	1.7	59.6
精密機械・同部品	23	23	1.5	△1.3
合計（その他含む）	1,291	1,524	100.0	18.0

〔注〕 ①輸入総額には輸出加工区、借款・贈与分を含む。

②2014/15年度は暫定値。

〔出所〕 バングラデシュ輸出振興庁およびバングラデシュ中央銀行

■ 日本企業は小規模ながら多分野へ投資

2015年の日本からの対内直接投資額（ネット、フロー）は4,537万ドルとなり、前年比52.9%減と大幅に低下した。うち、投資総額の67.2%に当たる3,047万ドルを留保金による再投資が占めた。前年に続き新規の投資は伸び悩んだものの、日系企業の進出数（現地法人、支店、駐在事務所を含む）は2016年4月時点で243社（ジェトロ調べ）となり、駐在員事務所を中心に、前年の5月から24社増加している。日本からの新規投資をみると、従来の輸出加工型に加え、国内市場向け製造業の進出もみられた。2015年11月には、カーシート・カバーを製造するテイ・エステックが、ダッカ近郊のアダムジーEPZ内に進出した。また内需を狙った企業としては、2015年2月にテラモーターズが進出し、国内向けに電動三輪車の組み立て・販売を開始した。サービス業では、免税などの特典が大きいIT企業の進出が活発化している。2015年中にソフトウェアのオフショア開発を行うセカイラボ、アトムAP、フランジアが進出した。また、バングラデシュ人向けに家電やスマートフォンなどの価格比較サイトを運営するダムドットコム、バングラデシュの中高生向けに学習アプリを開発するベンチュラスがそれぞれ現地法人を設立している。

今後も日系企業を含めた外資企業による投資の動向が注目される。